

新年あけましておめでとうございます！令和2年の始まりです。

あっという間に令和も2年になりました。本年度も残すところ3か月。小学校は新指導要領の実施準備もあり、大忙しですね。教員の働き方改革も喫緊の課題です。知恵や工夫が大切になります。その中にうまく読書推進活動も組み込んでいければなあと考えています。今年もよろしくお願いいたします。

図書館教育担当者研修会



<新保かおり先生>

<中田仁司先生>

<情報交換会>

1月28日（木）、十日町市教育センター主催の図書館担当者研修会が開催されました。市内のほとんどの学校の先生方と津南からも参加していただきました。ありがとうございました。

最初に十日町中学校の新保かおり先生から、学校図書館北信越大会で提案された「地域で支える学校図書館での学び」を発表していただきました。情報館から100冊の本の貸出しを受け、充実した学習が展開されたことが伝わりました。学習センターとしての図書室の提案でした。

次に長岡市立千手小学校の中田仁司校長先生から「千手小学校の読書教育」ということで講話をいただきました。「知・徳・体」＋「読書」を学校のランドデザインに掲げ「多様な読書活動により本が大好きな子」を目指して取り組んでいらっしゃる様子を教えてくださいました。読書により「見えない学力」を育てている様子がよく伝わりました。

- ① **「おはなしの部屋」と「はかせの部屋」**…「おはなしの部屋」では、本に親しみ、集中力や想像力、表現力を養うことを目指し、「はかせの部屋」では、本や新聞など各種資料に主体的に関わり、問題解決能力の育成を目指しています。
- ② **「千手っ子の100冊」**…良書に触れる機会を設け、読書を一層推奨しています。
- ③ **ボランティアの方々の活躍**…「読書アドバイザー」「読み聞かせボランティア」「作業ボランティア」「学校開放ボランティア」と様々な形で図書館活動への支援があります。伝統になりつつあるボランティア活動は、真似したい取組の1つです。
- ④ **バーコードで処理**…130周年の事業でバーコード化したそうで、図書の管理、貸し出し等、とても便利でうらやましい！

講話の後、グループでの意見交換でした。お金が無いと嘆いていても進みません。知恵と工夫を大切に、千手小学校の取組の中から1つでもやってみようというものを見つけましょう。（振り返りに「異学年の読み聞かせをやりたい」という方がありました。）「十日町おすすめの100冊」は、来年度、子ども読書推進担当の高橋が取り組みます。

子どもの読書活動推進に関する代表者シンポジウム

12月21日(土)、東京国際フォーラムで「子どもの読書活動推進に関する代表者シンポジウム」があり、参加しました。このシンポジウムの目的は、読書推進団体の代表者、および「第4次子ども読書活動の推進に関する計画」の中に具体的に明記された子どもの読書への関心を高める取組の団体(例えば家読、子ども司書、アニメーション等)の代表者が、現在の活動状況や第4次の計画を受けての今後の方針、また団体同士の横の連携等について討議することともに、今後の読書推進関係者の自身の活動の参考にすることにあります。簡単に報告します。

① シンポジウム

コーディネーター 専修大学文学部 教授 野口 武悟 氏
シンポジスト 日本図書館協会 顧問 森 茜 氏
読書運動推進協議会 野間賞選考委員 野上 暁 氏
家読推進プロジェクト 副代表 岡崎 忠明 氏
子ども司書推進プロジェクト 代表 アンドリュー・デュアー氏
アニメーション黒木秀子事務所 代表 黒木 秀子 氏

十日町情報館協議会の
委員を務めています!

最初に、シンポジストの方々が、自分の立場やそこで進めている子ども読書活動について話をしました。それぞれの場で、少しでも子どもたちが本を手にするように取り組んでいることが伝わりました。その中で印象に残った話を紹介します。

- ・中学生が勉強や部活で忙いから本を読まないというのは違うのではないかな。どう生きるか悩む時期。読みかけの本があるのが普通。
- ・子ども司書の取組は、趣味を肯定され自信をもつことにつながる。
- ・「友達同士で本を紹介し合う」活動は、子ども同士の力を生かして読書推進ができる。予算もかからない。
- ・「アニメーション」は、スペイン発の読書教育メソッドで読解力を育成する。「継続的な読書のおけいこ法」と言える。子どもを読み手にするには、教育が必要であるという考え。
- ・読書の力には、「聞く」が基本にある。親の読み聞かせが重要。
- ・「読書バリアフリー法」読書に困難のある全ての人を対象。環境だけでなく地域、経済、言語(外国人の母語)様々なバリアが考えられる。

② 記念講演

講師 柳田 邦男氏(ノンフィクション作家)

演題 「地域に根をおろす絵本活動～最近の事例とこれから」

次の5つの柱でお話をされました。

- 1 視野を広げる
- 2 絵本は読書の原点
- 3 多様な年齢層への語りかけ
- 4 絵本文化浸透の拠点—絵本館・図書館
- 5 おえかき、読みきかせのワークショップ

幼少期の絵本の体験が、読書習慣を身につける原点になる。学ぶ意欲、生き方を考えるきっかけにもなる。中学生、教師・保育士、中高年層と絵本を読む取組で新しい発見もあった…興味深い話がたくさんありました。